

ヤマト福祉財団 NEWS

Yamato Welfare Foundation 2006 Autumn

No12

平成18年度障がい者福祉助成金 各地で贈呈式を行いました



2008年北京パラリンピックのマスコット「楽々」をプレゼントされました

中国障害者連合会訪日団の胡向陽団長とアビリンピック大会東京地区で優勝したスワンカフェ&ベーカリー赤坂店の保坂由美さん

福祉はロマンだ!! Series05

ヤマト福祉財団賞 受賞者は今...

「はらから豆腐」で年商1億円
7万円貸金を実現

武田元さん 「蔵王すずしろ」

出張販売レポート

この街で一緒に生きていく
障がい者の
クロネコメール便配達

スワンネットつながるビジネス

YWF TOPICS

焼きたてパンがつなぐ
日本郵船さまとスワンベーカリー

私にしかできない仕事「ここにある」
成せば成るの精神で400冊くらい
一人で配達したい

ヤマト福祉財団賞

受賞者は今……

「はらから豆腐」で年商1億円
7万円賃金を実現

武田 元さん

社会福祉法人

はらから福祉会授産施設
蔵王すずしろ

「金儲けのできない施設関係者に障がいサービスを語る資格なし」と語る武田元さん（『蔵王すずしろ』施設長室で）

蔵王すずしろ

◇所在地／宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字七日原1-729

◇TEL0224 (34) 1331 ◇FAX0224 (34) 1332

「人間が人間らしく生きていくためには、それなりの最低限の衣食住が保証されなければならない。それは心身に障がいがあるとなかろうと関係ない。なのに、なぜ障がい者はいつまで経っても月額4、5千円の給料で1部屋4人の生活をしなければならないのか。それをおかしいと思わなければその人こそおかしいんじゃないか」と語る武田元さん（64歳）。第3回ヤマト福祉財団賞（現小倉昌男賞）受賞者の武田さんを宮城県蔵王町の『はらから福祉会授産施設・蔵王すずしろ』に訪ね、お話を伺いました。

『蔵王すずしろ』は東北新幹線白石蔵王駅から乗り合いバスで4、50分北上したところ、蔵王町遠刈田温泉の町外れにあります。森と畑に囲まれ、晴れた日には蔵王連山の美しい山並みを望むことができます。温泉街から乗ったタクシーの運転手が「あそこで作っている豆腐は美味しいですよ」と教えてくれました。そう、『蔵王すずしろ』といえば、そこに通う知的障がい者たちの手作りの、今や全国ブランドになっている美味しい豆腐や豆乳が有名。一つにはその蔵王の「はらから豆腐」の本場を覗き見たくて訪ねてきたのです。

富士登山に挑戦

武田元さんは、ここ『蔵王すずしろ』の施設長です。1997（平成9）年4月、施設のオープンと同時に就任しました。

元はといえば武田さんは、宮城県下のある公立高校の先生。父親の病気を機にたまたま故郷の町に開校した肢体不自由養護の町に開校した肢体不自由養護学校高等部に転じ、一時、再び普通高校に戻るものの養護学校時代にやり残したことが忘れられず、こんどは知的障害養護学校に勤務替えして通算23年間、障害児らと苦楽を共にしてきた



豆腐工場内の設備と働く通所者



「はらから豆腐」の配達専用車



「蔵王すずしろ」の表玄関で、武田さん



森と畑の中の豆腐工場

した。
 養護学校時代、武田さんは非常にユニークで大胆なことを企てました。高等部の毎年の卒業旅行に富士登山を計画したので、「生徒たちに生きていく上での自信をつけさせたかった」と言います。知的障がい者、というだけで本人はもちろん、親たちもその子の将来に自信が持てない。確かに知的障がい者というのは、通常いうところの勉強ができるかどうかできないとかのレベルの問題ではない。人によっては、読み書きもできなければ自分の身の回りの世話も難しい。親は子どもの将来を悲観して苦しみ。祖父ちゃん、祖母ちゃんはどうしてこんな子が我が家に生まれてきたのかと嘆く。周囲

のそんな空気はたちまち当の障がいのある子どもに伝わる。四六時中、周りがそうなら自信を持って生きていく気持ちにならない。絶望の淵に墜ちていく。
 「そんなとき、学校はどう対処したらよいか。教師としての自分はいかなる事をなすべきか。悩み、考えました」と武田さん。障がい者本人や親たちに自信を持たせること、そのために何をしたらよいかを考えに考えた上で思いついたのが富士登山でした。富士山はこの国の象徴的な山、知らぬ者はいない。
 「よし、富士山の頂上に肢体不自由の子どもたちを全員連れて登ろう」と考えたのです。計画を成功させるにはまず生徒らの身体を鍛えなくてはいけない。そこで「富士登山を成し遂げた卒業生」を合い言葉に、2年半にわたって連日のようにクロスカントリーやら長距離走などで心身を鍛練。いつか富士登山は毎年の学校行事として定着していました。

生徒の親たちも一度、一緒に登ったことがあります。ところが親たちは途中でみんなバテる。その脇を鍛えられた子どもらはすいすい登っていく。ああ、この子どもたちは捨てたものじゃない。みんなそう思ったと言います。
 「富士登山を計画したとき、当然、反対意見もあったが・・・。わたしは挑戦することが好きなんです」
 共同作業所づくりも「挑戦」だった。養護学校を巣立っていく卒業生らの行き場がない。特に最初の卒業生を送り出したときは深刻だった。就職先も通う施設もない。みんな悩む。悩んだ末に絶望状態になり、自殺を図ったり現に自殺者も出た。既存の施設に入れたらと思う、施設見学を行った。8畳の間に8人、1人1畳の生活を強いられるという障がい者の姿をそこに見た。見ながら自分が学校と一緒に過ごしている生徒らの姿がダブってくる。彼らも卒業後はあいう暮らしに飛び込まざるを得ないのか。「これは放っておけない」ということで、作業所づくりを始めたわけだ
 当初、1カ所作ることにしか考えなかった。が、1カ所ではどうにもならない。毎年新しい卒業生が生まれる。それに1カ月働いて5千円か6千円の賃金しか得られないことを知った時、これじゃあ彼らの生活が成り立つわけがないと思った。働く場所の確保と収入を増やすこと、それを求めてしゃにむに動いた。
 気がつくと無認可作業所を5カ所も運営していました。

豆腐で全国展開

作 業所の仕事で最初に手がけたのは陶器づくりだった。陶器は日持ちがするし、土は信楽から仕入れることができる。ところが作っても売れない。それに収支バランスを考えないで、2万、3万の工賃を払うものだから何度も行き詰まった。発想が幼稚だった。とにかく何か売れそうな商品を見つけてきては売った。Tシャツなど衣類、生花など。豆腐はその中の一つだった。

ところがその豆腐の売れ具合が断然光る。なぜなら同じ人がしょっちゅう買いに来てくれる。

口コミで宣伝してくれる。右肩上がりの売れ行きだった。そうになると、製品を仕入れて売るのはなく自分らで作って売ろうということになる。その方が障がいのある仲間たちの働く場所や機会をより増やすことにもなる。が、製造のノウハウをいかにして習得するか。そのとき協力の手を差し伸べてくれたのが、仙台市において80数年の歴史をもつ森徳とうふ店の3代目、森新一さんでした。

1997（平成9）年4月、知的障がい者授産施設『蔵王すずしろ』が開設、武田さんは養護学校を退職して施設長に就任します。例えば20年近い教職と作業所活動のダブル人生。その間には何年もグループホームに泊まり込み、そこから学校に通ったこともありました。

施設の開設と同時に豆腐づくりも「はらから豆腐」のネーミング



パワーアップセミナーで講師をされる武田さん



作業所活動のダブル人生。その間には何年もグループホームに泊まり込み、そこから学校に通ったこともありました。

で本格化します。使用する大豆は地元宮城県産、ニガリは赤穂水は蔵王山系から取水したもので、これで豆腐が美味くないわけがありません。地元温泉旅館などとの取引はもちろん、この数年の間に山口、大阪、東京町田・板橋、仙台などの障がい者施設にも卸売りするようになり、現在、年間の売り上げは1億円余。さらに全国的に販路拡大を図っています。とりわけ注目されるのが施設利用者（障がいのある人）40名へ払っている賃金

です。月額最低4万円、最高7万円、平均6万円余で、本年度中に全員7万円の賃金支給を目指しています。全国の障がい者施設の賃金レベルと比べ出色であることはいうまでもありませんが、10万円レベルの安定賃金を近年中に実現したいと意欲的です。武田元さんは言い切ります。「お金儲けのできない施設関係者に障がい者サービスを語る資格はない」と。まさにこの人にしてこの言葉あり、です。

（取材・文・写真 高田三省）



2006年6月8日、(株)福祉ベンチャーパートナーズ主催の『蔵王すずしろ』豆腐づくり体験実習講座で豆腐づくりを指導する『蔵王すずしろ』の助っ人、森新一さん（中央）

平成18年度障がい者福祉助成金 各地で贈呈式を行いました

施設の改善、備品購入資金の援助として、92施設、6事業に、総額5560万円の助成（障がいのある大学生34名に2040万円の奨学金を別途供与）が決定し、7月から8月にかけて、ヤマト運輸各支社、主管支店で贈呈式を行いました（助成先一覧は11号に掲載）。贈呈式には、支社長、主管支店長をはじめ、労働組合の役員も参加し、施設・作業所の実態に触れる機会にもなりました。賛助会員のご協力や、労働組合のカンパなど、みなさんのあたたかい気持ち、助成金として障がいのある方への支援につながっています。



軽トラックを作業所に贈る
ヤマト福祉財団
財団法人ヤマト福祉財団（山崎副理事長）は七月三十一日、釧路市大塚毛南五の大塚毛地区共同作業所へ大西第一委員長に軽トラック一台を寄贈した。

同財団は障害者の自立と社会参加に関する事業から地域社会と密に連携していききたい」と感銘を受けていた。

同作業所は知的障害者ら十八人が草刈りや噴霧剤の積み立てなどの作業をしている。

大塚毛地区共同作業所に軽トラックの目録を渡すヤマト運輸の松尾支店長（左）は「いたいたい」

8月2日 北海道新聞社提供

各地で報道された新聞記事を紹介します



おはよう共同作業所（北海道）

8月1日 釧路新聞社提供

軽トラックを役立てて
ヤマト福祉財団（山崎副理事長）は七月三十一日、大塚毛地区共同作業所へ大西第一委員長に軽トラック一台を寄贈した。

同作業所はヤマトグループ社員などからの寄付や賛助会などを通じて障害のある学生への奨学金や、施設改善への援助などを行っている。今年度は道内で物件の応募があり、同作業所をはじめ、5施設に助成金を寄贈した。

同作業所は10月21日（土）に軽トラックを受け取り、早速作業に役立てる。山崎副理事長は「おはよう共同作業所（野幌町子別荘）では、入所者と職員ら合わせて約20人が出迎えた。ヤマト運輸山田支店長から目録を受け取る野澤所長（左）は「いたいたい」

同作業所は10月21日（土）に軽トラックを受け取り、早速作業に役立てる。山崎副理事長は「おはよう共同作業所（野幌町子別荘）では、入所者と職員ら合わせて約20人が出迎えた。ヤマト運輸山田支店長から目録を受け取る野澤所長（左）は「いたいたい」

（藤山 祐）

8月11日 函館新聞社提供

3 作業所に助成金
ヤマト福祉財団道支部
「有意義に利用したい」

ヤマト福祉財団道支部は七月三十一日、野幌町北三好の3つの地域作業所で行われた、贈呈式に出席した。贈呈式は、早稲田町の施設改善工事などに役立てる。

同財団はヤマト運輸初代社長の故小島昌民氏の篤志により1993年に創設。ヤマト運輸労働組合のクバンなどの援助を受けながら施設改善を続けていく。

今年度は道内5件を認定。山田支店長からは函館市野幌町子別荘（野幌町）に約4万円、おはよう共同作業所（同轄野幌町）に約4万円、おはよう共同作業所（北三好市）に約4万円が贈られた。

この日は関係者が各作業所を訪れ、このうち、おはよう共同作業所（野幌町子別荘）では、入所者と職員ら合わせて約20人が出迎えた。ヤマト運輸山田支店長の山田正樹が、野澤所長から目録を受け取る。野澤所長は「財政状況が厳しく、助成金を有意義に利用し、入所者が快適に作業できるように努力したい」と話していた。

（小川 隆之）



郡山主管支店

7月27日 福島民友新聞社提供

県内3団体に助成

ヤマト福祉財団「施設の発展願う」

ヤマト福祉財団の福祉助成金贈呈式は二十六日、郡山市のヤマト運輸郡山主管支店で行われ、県内三団体



3団体に助成金が渡された贈呈式

に七十万円、郡山市の「みずき共同作業所」(真島なつ運営委員長)に九十万円、福島市の「なぎのいえ」(鈴木フミ子代表)に八十万円。それぞれ施設整備費などに利用される。

贈呈式では福田靖主管支店長が、各団体代表者に助成金を手渡し「助成金を生かし、施設が一層発展することを願っています」とあいさつ。施設代表者が、謝辞を述べた。

同財団は、障害者の自立や社会参加などを支援する事業を対象に、毎年助成している。本年度は、全国で事業九十八件、障害のある大学生への奨学金三十四件で、合わせて七千六百万円の助成を決めている。

各地で
報道された
新聞記事を
紹介します



関東支社

7月27日 福島民報社提供

県内の団体に 福祉助成金贈る

ヤマト福祉財団

ヤマト福祉財団の県内の団体への福祉助成金贈呈式は二十六日、郡山市目和田町のヤマト運輸郡山主管支店で行われ



福田主管支店長から福祉助成金を受け取る代表者

た。

助成を受けたのは、NPO法人鹿島町精神障害者の生活を支援する会(南相馬)と小規模作業所(郡山、NPO法人なぎのいえ(福島)。助成額は、支援する会が無農薬青ばな豆腐作り事業の助成として七十万円、みずき共同作業所が施設内の改修工事費として九十万円、なぎのいえがバリアフリートイレの設置費として八十万円。応募した県内五十五団体中から選ばれた。

贈呈式では福田靖主管支店長が三団体の代表者に福祉助成金贈呈書を手渡した。



中国支社

ヤマト福祉財団が助成金
ヤマト運輸グループが母体になって設立したヤマト福祉財団(東京)は、障害者支援のための本年度の助成先を決めた。中国五県は計五百五十万円を贈る。それぞれ物品購入費や施設修繕費などに充てられる。二十一日、広島市にある同財団中国支部で贈呈式がある。

助成先は次の通り。

小規模作業所「未来館」(広島市)▽あさがお福祉作業所(萩市)▽おかやま脳外傷友の会・モモ(岡山市)▽知的障害者施設「ひまわりの園」(倉敷市)▽共同作業所「レノキオ」(松江市)▽共同作業所「どんぐり」(大田市)▽共同作業所「せせらぎの家」(雲南市)▽砂丘福祉作業所(鳥取市)▽ストーク作業所(鳥取県大山町)

8月19日 中国新聞社提供

障害者施設へ助成金

ヤマト福祉財団

福岡で484万円贈呈

【福岡】上田慎二（ヤマト福祉財団）は七月二十八日、福岡市博多区のヤマト運



施設や団体の代表者に目録を手渡す

8月3日 物流ニッポン新聞社提供



四国支社

に障害者福祉助成金を贈呈した。小規模作業所、障害者スポーツ団体など九つの施設や団体に総額四百八十四万円が贈られた。助成金は施設の修理や器材の購入、車いすマラソン大会、研修・教育活動などに活用される。同支社の野田実支社長



北信越支社



九州支社



作業所活動助成マーズに80万円 ヤマト福祉財団

【糸満】障害者の自立と社会参加を支援するヤマト福祉財団（東京都）がこのほど、宮古島のNPO（民間非営利組織）・マーズ（下地克子代表）に八十万円を助成することを決め、助成金贈呈式が十五日、同財団の関連企業である糸満市の沖繩ヤマト運輸で行われた。写真

助成金贈呈は同財団の「障がい者福祉助成金事業」の一環。障害者施設の自立、社会参加に向けた事業に対して助成する。

マーズはNPO法人の形態をとる作業所で、精神障害者三十五人がサトウキビやトマト、レタスなど農作物の生産に従事している。

今回は、自らが生産した作物を新たに加工した

8月23日 琉球新報社提供

り、直接販売したりして障害者の雇用確保や資金アップを図ろうと、助成金事業に応募。採用された全国約百団体のうち、県内で唯一選ばれた。贈呈式では、同財団に代わり沖繩ヤマト運輸の鹿島利明社長が下地代表に目録を手渡し、「わたしたちとしても社会貢献の一端を担い、皆さんの手伝いをできるだけしていきたい」と激励した。

下地代表は「資金や収益が限られている状況で、財団の支援はとてもうれしい便り。この助成金で早速に計画を実現したい」と喜んだ。



中部支社

焼きたてパンがつなぐ 日本郵船さまと スワンベーカーリー



日本を代表する海運会社「日本郵船」。
丸の内にあるその本社では月に1回、
スワンベーカーリーの旗が立ちます。
出張販売が日本郵船のみなさんに、
どのように受け止められているのか
お聞きしました。



出張販売の会場入り口には、スワンベーカーリーを紹介したボードが掲げられ、スワンの目指すものについてご理解をいただいています。こうした出張販売もヤマトを身近に感じていただけるきっかけに。

女性社員を中心に 評判上々

この出張販売が実現したきっかけは、スワンベーカーリー赤坂店にかかってきた一本の電話から。

昨年、日本郵船創立120周年を機にあらたに設立された社内の社会貢献チーム「コーポレート・シテイズンシップ・オフィス（OCC）」のチーム長、浜本佳子さんがスワンベーカーリーの噂を聞いたのは、各企業の社会貢献活動担当者が情報交換をする会合でした。

社員が社会活動しやすい環境をつくることを考えていた浜本さんは早速、出張販売を行っている赤坂店に電話を入れ、当時の岡本前店長がすぐに動き、とんとん拍子にその年の7月からランチボックスの販売が始まりました。

注文に応じて必要な個数をお届けするランチボックスは、会議などでの利用を中心に人気を博し、多いときは1回の注文で50個の依頼があったほど。

浜本さんの上司である広報グループ・グループ長、永井圭造さんの後押しもあって、今年1月からは事前注文のランチボックスとは別に毎月1回、出張販売をする運びになり、これも人



浜本佳子さん 広報グループ コーポレート・シテイズンシップ・オフィス チーム長



永井圭造さん 広報グループ グループ長

気で、現在では本社内で一番広い会議室をお借りして、販売会を実施しています。
顔が見えて初めて伝わるもの

日本郵船さまは、新潟県中越地震やスマトラ沖地震といった大規模災害に対し、その都度、支援物資の無償輸送や社内募金を実施し、朝日新聞社による「朝日企業市民賞」を受賞するなど、その企業姿勢は高く評価されてきました。

しかしその一方で、こうした社会参加のあり方だけでは「社員一人ひとりが触れあう貢献が



ロゴ入りマドレーヌを提案



好評のランチボックス



ランチボックスの社内注文から、赤坂店への発注も担当している広報グループOCCの室谷朋子さん（左）。ボランティアで販売も手伝います。「みなさん、普通の方と話すのとまったく変わりません、愉しくお手伝いさせていただきます」

スワンカフェ&ベーカリー 赤坂店



店長 守吉博美さん

2001年、オープンのおときは小泉首相（当時）やアメリカのベーカリー駐日大使（当時）がお祝いに駆けつけてくれました。最近、霞ヶ関のお役人の方々や、地元のおフィスにお勤めのお客さまでお店はいつも満席です。

現在、21名のスタッフのうち、障がいのある方が13名働いています。4月から店長になった守吉博美さんは毎日、意欲的です。



明治学院大学生ボランティアと

出張販売で外資系の証券会社、生命保険会社などにアプローチして売り上げを伸ばしています。また、明治学院大学の販売では、学生ボランティアの方も参加して「障害者雇用」と「共生社会」の実現を目指してはりきっています。

店では「体に良いもの」をテーマに新メニュー、新商品の提案も好評。オープン当初から働くメンバーが「こんなことをやってみたい」ということを少しずつ形にしていきたいと、守吉店長が頑張っています。



社内販売の日ともなると、うちの部署ではみんな、「今日はスワンの日」とそわそわしています。（笑）

「スワンベーカリーさんとのケースもそうですが、触れあいのある社会参加は人を元気にさせますね」（永井さん）

創立120周年記念として開始した、里親家族をチャリティークルーズに招待する事業では、社員が子どもたちの安全をケアするボランティアスタッフとして参加。この体験を通じて、単に無償で物資を運ぶ形の支援では得られない元気を社員の方々にももたらしたといえます。

スワンベーカリーの出張販売もこうした活動の一環と位置づけ、「社会貢献への関心をますます社員に広げていきたい。社員もいきいきするし、会社もよくなる。そして、社の内外を問わず多くの方をハッピーにする

誰もがいきいきできるように

なかなかできない」という面があったと、永井さんは語ります。スワンベーカリーの出張販売では、障がいのある方もごく当り前にお客さまと接し、そこには触れあいがあります。顔が見えて初めて伝わるもの・・・、この出張販売を実現させた浜本さん自身、「健常者と障がいのある方の境って何だろうか？ 違いなんかなにもないんじゃないか？」と口にします。

日本郵船株式会社

日本を代表する海運会社。2006年3月期の連結売上高は1兆9293億円。経常利益1,405億円。

「モノ運び」を通じたCSRにも力を注ぎ、被災地への無償輸送をはじめ、海上運航の安全や環境に配慮した活動を展開。企業としてトル・ハイエルダール国際海洋環境賞を受賞（2005年）する一方で、国際海洋環境調査

プロジェクトの支援も行っている。

グループの中期経営計画として「世界をリードする、グローバルな海・陸・空の総合物流企業グループ」を目指し、2005年には日本貨物航空を連結子会社化。そして今年、ヤマトHDと提携。6月には共同で新会社「郵船ヤマトグローバルソリューションズ（株）」を設立した。

ことが出来るはず」とお二人そろって、皮膚感覚を大切にしたい活動への熱意を語ってくれました。
一つたった百数十円のスワンベーカリーのパン。しかし、それは作り手とお客さまを超えてつながる、豊かなきっかけでもあるようです。



菅野信夫さん 雨の日は、荷物がぬれないように気を遣って、一番緊張します。



山田まゆみさん あいさつが聞こえなくて、不審がられたこともあります。そんなときは、ニコッと「ありがとうございます!!」と頭を下げます。やめないで良かった、今は一人で400冊ぐらい配ってみたい夢があります



障がい者の クロネコメール便配達



私にしかできない仕事が 「ここ」にある」 成せば成るの精神で、 400冊くらい一人で配達したい

福島の太平洋側に位置する南相馬市にある『ほっと悠』。メンバーの朝は、施設の掃除から始まります。そのあと、「職場の教養」という小冊子を読み合わせしながら、ミーティング、それぞれの体調を確認したら、担当の仕事が始まります。メール便事業をスタートしたのは、財団が主催する「パワーアップセミナー」に参加した所長の村田さんが刺激を受け、早速手を挙げたところからだと思います（2005年6月）。

「安心」は報・連・相の徹底から

実際に仕事が始まった当初の3カ月くらいは、担当するエリアの中でも、不審者と間違われたり、クレームもありました。そんな時、所長の村田さんはメンバーと一緒に「お客様さまのところに伺うそうです。」「アシデントは予想もなく起こります。どんなことがあっても、すぐに話せばお客様さまもわかってくれるんです。お客様さまへ伺ったら、その足でメンバーと一緒にヤマトさんにも伺い事情を説明します。メール便をお届けするお客様さまも、仕事を出してくれるヤマトさんも、私たちにとっては大事なお客さまです。ですから、ヤマトさんには、何かあったとき、そちらだけで処理をするのではなく、必ずこちらに言って欲しい、とお願いしているんです。

これがあるがたい。何かあったときすぐに動くことで、ほっと悠の姿勢が問われます。私たちは、『信用』が、何よりの財産ですから」

NPO法人 ほっと悠
小規模作業所
『食彩庵』『ゆうの風』『Baiten&Cafe'ほっと悠』などレストランや病院内売店・喫茶店の運営をはじめ、商品の販売～定期配達、廃品回収、内職・メール便など、幅広い事業を行っている。
クロネコメイト 3人(9月6日現在)

「障がい者のクロネコメール便配達事業」
問い合わせ先：ヤマト福祉財団 押尾
TEL 03-3248-0691
Email y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp

クロネコメール便が 地域のコミュニケーション の一役を



「メイトさんは私たちのパートナーです」と樋口美枝子原町南メール便センター長

東北支社圏内でクロネコメール便配達を行っている50の障がい者施設のうち20施設が郡山主管支店のエリアにあります。その一つが原町南センターの担当する『ほっと悠』です。

今回は郡山主管支店山口課長に、障がい者のクロネコメール便についてお聞きしました。

郡山主管では、主管の会議で、福田主管支店長が「すべての障がい者施設でクロネコメール便を手伝っていただけるよう、積極的に動いてほしい」といつも話されます。仕事をお願いする上で、障がいのある方、という特別扱いは何もありません。障がいのある方は、こちらがお願いしたやり方を素直にやってくれますから、自分流がない。誤配もありません。みなさんが我々のパートナー。『まずはやってみましょう』、と声をかけるところから始まります。

少しだけ気を遣うことといえば、担当していただくエリアです。地域に根ざす施設が、メール便配達をやっている、ということを知ってもらうことが一番大切なのではないでしょうか。そこに地域のコミュニケーションも生まれます。社会貢献はもとより、メール便配達、その役目を負えればありがたいことだと思います。

こちらは都心の住宅地域と違って、地域も広く、メール便の始まった10年前は軽4輪やバイクでなければ無理でしたが、当時から比べるとメール便の量も3倍くらいに増え、自転車でも配達できるくらいエリアも密集してきました。そこで、配達地域の効率化を図るために、既存のメイトさんとも話し合い、エリアを小さくして、障がい者のクロネコメール便配達をお願いするよう、心がけています。

『ほっと悠』さんでも、慣れるまでは、いろいろ工夫されたと思いますが、どんな仕事でも最初は同じです。今後はエリアを広げてほしいですね。

＜原町南センターデータ＞
南相馬市原町区（郡山主管支店相双エリア）
エリア／広野・大熊・浪江・原町・相馬・松川地域で構成。
東西30km南北100km、エリア人口18万6000人
原町地区／人口4万5000人、1万1000世帯、原町地区には三つの障がい者施設がメール便に従事している

水戸二夫さんセンターに今日の配達分を取りに行く



朝のミーティング

仕分け、地図の落とし込み



ほっと悠所長村田純子さん（左）とエリア担当の古橋頌次スーパーバイザー



と所長の村田さん。
例えば配達の時、お菓子をもらったということも、メンバーは必ず所長に報告します。ほうれんそう（報告・連絡・相談）を徹底することで、お客さまとも「安心」というコミュニケーションがとれるのです。

「ありがとう」と言われる喜び

30人程のメンバーの中からクロネコメイトになったのは、自分から立候補した3人。1年強の経験の中で、確実に変化してきたのは、責任感、そして何よりお客さまから「ありがとう」と言われる喜びです。

「自分一人が良くなるのではなく、障がい者と健常者が手を取り合っていけば、町全体が一つになって、みんなが元気になっていく。それができることを伝えたいんです」

「クロネコメール便の●●です。メール便を届けにきました！」と元気にあいさつをしながら、雨の日も、風の日も配達している姿を、町の人も応援しています。

「自分一人が良くなるのではなく、障がい者と健常者が手を取り合っていけば、町全体が一つになって、みんなが元気になっていく。それができることを伝えたいんです」

「自分一人が良くなるのではなく、障がい者と健常者が手を取り合っていけば、町全体が一つになって、みんなが元気になっていく。それができることを伝えたいんです」

「自分一人が良くなるのではなく、障がい者と健常者が手を取り合っていけば、町全体が一つになって、みんなが元気になっていく。それができることを伝えたいんです」

ワカメの取引を開始



埼玉県心身障害者
地域デイケア施設 らいぶ
埼玉県川口市
らいぶ/19人
第2らいぶ/13人

取材/東京支部 名古屋事務長



を仕入れて販売を行っています。野菜販売は、近くの市営住宅で定期的に出張販売を行ったり、イベントに模擬店を出すなど定期的に買っていたくお得意さんを開拓しました。昨年からのこだわりの味噌造りを開始、この自慢の味噌と一緒に味噌汁の具として定番のワカメの販売も始めました。

スワンネットが「ワカメ」の販売を始めたのはらいぶさんの「ワカメを扱ってほしい、野菜と同じようにどんどん消費するものだし、私たちも売りますから」という提案からです。この一言から、岩手県田老町漁業組合と取引を開始し、三陸産ワカメを扱うようになりました。つながるビジネスはここでも始まっています!!

スワン ネット

swan net

つながるビジネス

設立して10年、ポストカードやピアーズアクセサリーの制作などと共に、スワンネットから野菜

野菜の下準備をして弁当屋へ納入 食堂や病院など顧客獲得に奮闘中



スワンネットと取引を始めたのは、1年ほど前。年間安定して供給できるシステムをホームページで知ったことから、じゃがいもや玉ねぎを産地直送

店で販売。産地直送店では地元生産者との価格競争が激しいため、お弁当屋への材料として野菜の下準備を行って納入することも始めました。利用者の仕事は野菜の袋詰めから、下準備の皮むきやカットなど。軽自動車での配達も行っていきます。

食堂・病院など、定期的に大量の野菜を納入できる販売先の獲得に向け、奮闘中です。

彩工房 はまゆう
宮崎県宮崎市
精神障がい者11人

取材/九州支部 目野事務長

パンや縫製品と一緒におすすめ トイレットペーパーの顧客拡大

スワンネットとの関係は、財団法人支部の情報から。農業地域という土地柄、野菜販売より、ロールの巻が長く、毎日消費するトイレットペーパーは売れ筋商品です。はとぼっぱの主な事業はパンの製造販売ですが、官庁、病院、学校、保育園、企業などへ出張販売に出向くときも、必ずトイレットペーパーのチラシを配りPRを行っています。

年数回行われるバザーでは、スワンネットから仕入れた野菜と共にトイレットペーパーを並べて販売。パンやもう一つの事業である縫製品などと一緒に販売し、エリアの拡大を

目指しています。

平成11年のパワーアップセミナーから参加し、常に仕事起こし情報のアンテナを張り巡らせています



社会福祉法人 銀の鳩
知的障害者小規模通所授産
施設「はとぼっぱ」
鳥根県大田市
障がい者 平均19人

取材/中国支部 竹下事務長



お詫びと訂正
前号の穂積園の記事の中で、「園生」と記すべきところ「員生」となっていました。訂正しお詫び申し上げます。



今年も労働組合から
多額のご寄付を
いただきました。
ありがとうございました



越川委員長から目録の贈呈

9月14日東京プリンスホテルで行われたヤマト運輸労働組合の第61回定期中央大会のなかで、夏のカンパの贈呈式が行われました。

20年連続で取り組む組合のカンパ活動で、今年は過去最高額の5708万2000円が集められ、そのうち4500万円を財団に寄付をしていただきました。

山崎理事長は、御礼のあいさつで「13年前、小倉前理事長が私財を投じて障がいのある方々の自立と社会参加を支援する目的で財団を設立しました。事業の一つとして、障がいのある学生への奨学金、施設への助成を行っています。もう一つの事業である、パワーアップセミナーで10年前から、月給1万円からの脱却を提唱していますが、実態をみるとまだまだという現状があります。

今年は、自立支援法が施行され、従来なかった福祉サービスを受けるための応益負担が実施されることになりました。これにより、サービスの1割負担ができなければ、施設や作業所に行きたくても行けない状況が発生します。だからこそ、経済的自立が不可欠なのです。

財団の活動は、ヤマトの株の配当金、ヤマトグループ、社員の賛助会員のみなさまの会費、そして夏のカンパが運用の柱となっています。



今後も組合の全面的なバックアップをお願いし、多額の寄付に御礼を述べる山崎理事長

小倉前理事長の
偲ぶ会が開かれました



小倉前理事長が亡くなられて1年目の6月30日、ご家族、ご親戚、ヤマトHD、労働組合、福祉財団の関係者により、小倉前理事長の追悼ミサと偲ぶ会が開かれました。会場には、お若い頃の写真や愛用の品々も飾られ、在りし日の思い出に浸りました。

財団は、月給1万円からの脱却を、まずは5万円、そして10万円を目指し、当たり前にも働ける職場、そして働くことのすばらしさを伝えていきたいと思っております。

また、障がいの者のクロネコメール便の委託事業を進めてきました。障がいのある方が従来とは違う社会とのつながり、自分にもできるという自信が生まれます。ぜひヤマトのネットワークで支援をお願いします」と述べ、今後も労働組合の全面的なバックアップが必要であることをお願いし、多額の寄付への感謝の言葉で締めくくりました。

組合から、今春、組合結成60周年を記念して300万円の寄付があり、併せて4800万円もの多額の寄付をいただきました。このあたたかい寄付金は、障がいのある方々の自立支援に役立てられます。



左から ヤマト運輸労働組合 越川利勝中央執行委員長、あしなが育英会 玉井義臣会長、ヤマト福祉財団 山崎篤理事長、四国ヤマト運輸労働組合 森本明執行委員長

中国障害者連合会の代表団が来日 財団の障がい者 支援事業を視察



スワンの赤坂店を見学。人の動き、商品などを追う



日本の障がい者が作ったランチボックスで昼食



胡向陽団長（左）とアビリンピック東京代表*になった赤坂店の保坂由美さん（アビリンピックポスターの前で

日本の福祉制度を研修するため、中国の障がい者団体、政府関係者、医療関係者40人が来日しました。ビックサイト（東京）で行われた国際福祉機器展を視察、厚生労働省への訪問など、日本の障がい者の現状を視察する一つとして、9月26日、スワンカフェ＆ベーカリー赤坂店を訪れました。

財団の伊野常務理事が、宅急便を開発した前小倉理事長が障がい者の自立を支援するために、財産のほとんどを寄付して財団を作ったこと。現在財団が行っている助成事業、パワーアップセミナー、スワンベーカリー、クロネコメール便配達などの自主事業について紹介しました。

※アビリンピック東京大会(障害者技能競技大会)の喫茶サービス競技の部で保坂由美さんが優勝し、10月27日からの全国大会に出場します。

第5回経営パラリンピック 「福祉と経営の融合」の輪を広げるために

第5回経営パラリンピックが、9月18日に行われました。これは、大阪成蹊大学の山本ゼミが中心となり、「福祉と経営の融合」を基本理念に障がい者がどうすれば収益をもたらす物づくり、人づくりができるのかを、実際に福祉現場や企業現場に通い、その成果を福祉施設と一緒に発表するものです。

財団は第1回目から小倉前理事長が賛同し、後援を続けています。今年は山崎理事長が、共に働き共に生きる社会を作ることを目指す財団の活動を中心に基調講演を行いました。

メール便事業の報告では、高次脳機能障害のメイトが当初90分で2冊の配達だったのが1人で140冊できるように

なった実績を発表した、第三工房ヒューマン（吹田市）、のほか3作業所が発表しました。



自立センターレポート パンが売れていくのが 楽しくなってきました！

自立センターが開設して4ヵ月が経ちました。10月1日に施行となった自立支援法で、現行の通所授産施設から就労移行支援事業という体系に移行し新たにスタート。利用者も仕事に対する自信が生まれ、「就職をする」という目標がそれぞれ意識されるようになってきたようです。

また、ベーカリー、クリーニング工舎も、仕事の幅が広がってきました。ベーカリー工舎では、新座市役所や消防署、十字学園でも出張販売を行っています。メイトさんのジャケットが中心だったクリーニング工舎では、徐々にSDさんの制服の受注が増えてきました。



新座市役所の入り口でチラシを配るいけだくとじさん

ベーカリー工舎



週2回、市役所の食堂がある地下1階の場所を借りて販売を行っている。この日160個のパンが30分足らずで完売した



「パンが売れていくのが楽しくなってきました」と、レジのいけだりょうさん

新座市役所
出張販売

クリーニング工舎



「パンの袋詰めが忙しい時間は、誰かが手伝います。その人が抜けたところは、誰かが入って作業をしています」と、くりはらいさむさん(左)、なみきまゆみさんは「仕事が慣れて楽しくなってきました！」

試食会潜入レポート クリスマスケーキに新作 「スノーマン」登場



楽しんでください。

●
昨年はクリスマスケーキの販売で、作業所のみさんのボーナスとなったところもありました。今回も全国の作業所での販売を拡大していきます。

クリスマスケーキ最終チェックの試食会が、モニターの女性社員9名で行われました。今回の目玉は「スノーマン」。スポンジと北海道産生クリームの雪だるまケーキです。チョコレートやドライフルーツで、目・鼻・口をトッピングできる遊び心満点のケーキ！

「自分で雪だるまを作るなんて、箱を開けたときから楽しめるねっ！」「クリームたっぷりだけど、あっさりしておいしい」…、試食メンバーも納得の一品。忙しい暮れの一日、今年はケーキの雪だるまを作っ



定番のファミリーショートケーキ



大粒のマロンが人気のモンブラン



ドイツの伝統的なクリスマスのお菓子、シュトーレン



ココアスポンジがベールのショコラ・シュニッテン



チェックするモニターの女性社員

予約申し込み
11月1日～12月5日
お届け日
12月20日～24日

ART HEALING

生誕100年記念

ダリ回顧展

日本初公開作品も多数 20世紀を代表する画家 「サルバドール・ダリ」の回顧展

サルバドール・ダリ（1904～1989）の生誕100年を記念して、スペイン（ダリ劇場美術館）とアメリカ（サルバドール・ダリ美術館）の2大コレクションから、日本初公開を含む約60点の油彩画などが上野の森美術館にやってきました。ダリの初期から最晩

年の足跡をたどる貴重な作品・写真が展示されます。一言では言い表せないダリの魅力を、この機会にゆつくりと鑑賞ください。
この世界2大ダリ・コレクションが集結した「ダリ回顧展」の美術品取り扱い扱いをヤマトロジステイクスが協力しています。



「記憶の固執の崩壊」 サルバドール・ダリ美術館所蔵
Worldwide © Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, SPDA, Tokyo 2006
In the USA: © Salvador Dalí Museum Florida/ Tokyo 2006

- 開催期間** 2006年9月23日（土）～2007年1月4日（木）
全104日間会期中無休
- 開催場所** 東京・上野の森美術館
JR「上野駅」公園口から徒歩3分、
東京メトロ銀座線・日比谷線／京成線
「上野駅」から徒歩5分
- 開館時間** 午前10時～午後6時
（入館は閉館30分前まで）

観覧料金

券種	当日	障がい者	障がい者の介護者
一般	1500円	750円	介護者1名は無料。 入館の際障がい者手帳などの提示が必要です
高大生	1100円	550円	
小中生	500円	250円	

※未就学児は無料。※団体割引あり。

問い合わせ先 ☎03-5777-8600（年中無休7:00～23:00）
オフィシャルホームページ www.dali2006.jp
主催 フジテレビジョン、朝日新聞社
ガラ＝サルバドール・ダリ財団、サルバドール・ダリ美術館



「ラファエロ風の首をした自画像」
ガラ＝サルバドール・ダリ財団所蔵
Worldwide © Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, SPDA, Tokyo 2006



「焼いたベーコンのある自画像」
ガラ＝サルバドール・ダリ財団所蔵
Worldwide © Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, SPDA, Tokyo 2006

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 （ヤマト運輸（株）内）

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	名古屋健史	TEL.03-5564-3705
関東支部	森田雅哉	TEL.03-3471-9016
北信越支部	酒井 貢	TEL.025-231-9512

支部	事務長	連絡先
中部支部	ヨシノリ 木村叔功	TEL.0561-61-5111
関西支部	石田久雄	TEL.06-6414-5400
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	越智久美子	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	松茂良興三	TEL.098-840-3605

賛助会員 個人52,073人 法人ヤマトグループ58社（2006年3月31日現在）

古紙配合率100%の再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

